



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 株式会社サンリオ 上場取引所 東  
コード番号 8136 URL <http://www.sanrio.co.jp/corporate/ir/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 辻 朋邦  
問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 松本 成一郎 (TEL) 03-3779-8058  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家及びアナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	143,194	36.7	62,398	51.8	63,456	48.7	43,679	29.3
2025年3月期第3四半期	104,786	44.7	41,093	92.1	42,665	89.8	33,790	109.4

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 41,403百万円( 24.4%) 2025年3月期第3四半期 33,279百万円( 72.3%)

	連結子会社の決算期相違による連結調整前営業利益	
	百万円	%
2026年3月期第3四半期	60,497	44.1
2025年3月期第3四半期	41,969	93.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	181.66	179.60
2025年3月期第3四半期	143.07	137.41

(注) 連結子会社の決算期相違による連結調整前営業利益は、子会社の正規の決算を基礎として、決算日の相違による連結会社間取引に係る重要な不一致について、必要な整理を行う前の数値です。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	210,108	137,866	65.5
2025年3月期	202,406	107,608	52.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 137,697百万円 2025年3月期 107,031百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	20.00	—	33.00	53.00
2026年3月期	—	31.00	—		
2026年3月期(予想)				35.00	66.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	190,600	31.5	75,100	45.0	76,400	42.9	52,000	24.6	215.84

		連結子会社の 決算期相違に よる連結調整前 営業利益
		百万円
通期		74,500
		%
		33.9

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 連結子会社の決算期相違による連結調整前営業利益は、子会社の正規の決算を基礎として、決算日の相違による連結会社間取引に係る重要な不一致について、必要な整理を行う前の数値です。

#### ※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 — 社（社名） 、除外 — 社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	255,408,303株	2025年3月期	255,408,303株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	12,974,892株	2025年3月期	18,121,226株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	240,445,895株	2025年3月期3Q	236,179,623株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
(4) 利益処分に関する基本方針及び当期の配当 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書 .....	8
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書 .....	9
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	11
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは3ヵ年の中期経営計画「不確実な成長から、安定・永続成長へ」（2025年3月期～2027年3月期）に基づき、主要施策の「マーケティング・営業戦略の見直しによるグローバルでEvergreenなIP化」「グローバル成長基盤の構築」「IPポートフォリオ拡充とマネタイズの多層化」を推し進めてまいりました。また、2025年5月には10年間の長期ビジョン「みんなを笑顔に導く灯台に-Roadmap to a World of Smiles-」を公表し、10年後の時価総額5兆円の達成に向けて様々な施策を講じております。

国内外のライセンスおよび物販事業では、前期の50周年施策で人気がさらに高まった『ハローキティ』に加え、今期は『クロミ』や『マイメロディ』などの周年施策を講じたキャラクターの認知度も向上し、グローバルで様々なキャラクターの人気が続いたことが奏功いたしました。なお、サンリオグループ共通の会員サービス「Sanrio+」の会員数は2025年12月末現在で約310万人となりました。

以上の結果、売上高は1,431億円（前年同期比36.7%増）、営業利益は623億円（前年同期比51.8%増）、経常利益は634億円（前年同期比48.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は436億円（前年同期比29.3%増）となりました。

なお、すべての海外連結子会社の決算期は1月～12月であり、当第3四半期連結累計期間の対象期間は、2025年1月～9月であります。

〔報告セグメント〕

(単位：億円)

		売上高				セグメント利益（営業利益）			
		前第3 四半期	当第3 四半期	増減	増減率	前第3 四半期	当第3 四半期	増減	増減率
日本	物販その他	485	619	134	27.6%	272	406	133	48.8%
	ロイヤリティ	150	232	82	54.9%				
	計	635	852	216	34.1%				
欧州	物販その他	0	1	0	29.5%	9	23	14	163.4%
	ロイヤリティ	33	78	44	130.9%				
	計	34	79	44	128.3%				
北米	物販その他	14	16	1	13.4%	52	58	6	13.1%
	ロイヤリティ	167	171	3	2.3%				
	計	182	188	5	3.2%				
南米	物販その他	0	0	0	19.6%	3	6	2	59.0%
	ロイヤリティ	11	22	11	100.0%				
	計	11	22	11	98.5%				
アジア	物販その他	40	88	48	121.0%	87	149	62	72.1%
	ロイヤリティ	142	199	56	39.8%				
	計	183	288	105	57.6%				
調整額		—	—	—	—	△14	△20	△6	—
連結	物販その他	541	726	185	34.2%	410	623	213	51.8%
	ロイヤリティ	506	705	198	39.3%				
	計	1,047	1,431	384	36.7%				

(注) 海外地域の子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額を売上原価として著作権所有者である日本の親会社に支払っており、それを親会社は売上高として計上しておりますが、連結消去されるため、上表の日本の売上高にはその相当額は含まれておりません。セグメント利益（営業利益）には反映されております。

なお、ここに示す売上高は、外部顧客に対する売上高であり、前述のロイヤリティに限らず報告セグメント間売上高は内部取引高として消去しております。

## ① 日本：売上高852億円（前年同期比34.1%増）、営業利益406億円（前年同期比48.8%増）

## 1. 物販事業・ライセンス事業

物販事業およびライセンス事業は、『ハローキティ』の人气が継続するとともに2025年に周年を迎えた『クロミ』や『マイメロディ』を中心とした複数キャラクター戦略が引き続き奏功いたしました。

また物販事業では、2025年11月に東京キャラクターストリート店、12月に原宿店が新規オープンいたしました。自分だけのオリジナルグッズを作れるワッペンデココーナー（原宿店）などの店舗限定商品が人気を博し、両店舗ともに計画を大きく上回る実績となりました。

ライセンス事業は、周年を迎えたキャラクターを中心に多くのキャラクターが採用され、飲料、外食、消費財、コスメ、アパレルなどの幅広いカテゴリーで売上高を大きく伸ばしました。特にシール人気の高まりを受けて関連商材が人気を博しました。

営業損益については、売上高の大幅増加により大きく伸長いたしました。

## 2. テーマパーク

サンリオピューロランド（東京都多摩市）は、同施設の人気アトラクションである「Miracle Gift Parade」を、12月7日に「The Quest of Wonders Parade」として10年ぶりにリニューアルいたしました。また、「PUROHALLOWEEN」（9/5～11/4）や「Puroland Illumination Christmas」（11/7～12/25）などのシーズンイベントが人気を博すとともに、イベントに連動した限定商品や食事メニューが好調に推移いたしました。

営業損益は、売上高の増加により増益となりました。

ハーモニーランド（大分県）は、「Harmony Halloween Magical Masquerade」（9/12～11/4）や「HARMONYLAND CHRISTMAS」（11/7～12/25）などのシーズンイベント、当該イベントに連動した限定商品や食事メニューも好調に推移いたしました。

なお、大分空港・杵築駅・ハーモニーランド間において鉄道ダイヤに接続したバス（ハーモニーライナー）の実証運行（8/2～11/15）が好評につき2026年3月末まで延長となっております。

営業損益は、売上高の増加により増益となりました。

## ② 欧州：売上高79億円（前年同期比128.3%増）、営業利益23億円（前年同期比163.4%増）

ライセンス事業は、複数キャラクター戦略の継続やグローバルブランドとの取り組みが奏功し、売上高が大幅に増加いたしました。特にファストファッションブランドとの取り組みが奏功したアパレルカテゴリー、複数のキャラクターが採用された玩具カテゴリーが牽引いたしました。

営業損益は、売上高の増加により大幅増益となりました。

## ③ 北米：売上高188億円（前年同期比3.2%増）、営業利益58億円（前年同期比13.1%増）

ライセンス事業は、玩具、アパレル、デジタルカテゴリーの売上高が伸長いたしました。玩具カテゴリーは、ぬいぐるみやフィギュアなどが好調に推移いたしました。アパレルカテゴリーは、既存ライセンスとの取り組みにより引き続きマス市場（量販店など）向け商品展開を行いました。デジタルカテゴリーは、複数のキャラクターが登場するゲームコンテンツをさらに多くのプラットフォームで配信を開始し、売上高の拡大と認知度向上に貢献いたしました。

また、ブランド価値向上と顧客接点拡大に向け、プロスポーツリーグのMLB（野球）、NHL（アイスホッケー）、NBA（バスケットボール）、MLSやNWSL（サッカー）、F1アカデミーなどのスポーツイベントやカルチャーイベントにも参加いたしました。

営業損益は、マーケティング投資やEC輸送費用の増加などが影響したものの、増加いたしました。

## ④ 南米：売上高22億円（前年同期比98.5%増）、営業利益6億円（前年同期比59.0%増）

南米全体では、ライセンス事業において、アパレル、ヘルス&ビューティー、文具、アクセサリ、バッグカテゴリーが好調に推移いたしました。また、50周年の『マイメロディ』や20周年の『クロミ』、また『シナモロール』など『ハローキティ』以外のキャラクターの人气も高まりました。

メキシコは、通学用のバッグが好調のバッグカテゴリーや、10代向けの学用品などが人気を博した文具カテゴリーが好調に推移いたしました。ブラジルは、大手製薬会社とコラボレーションしたリップクリームがヒットしたヘルス&ビューティーカテゴリー、『クロミ』や『ハローキティ』の人気の高まり

を受け好調のアパレルカテゴリーなどが売上増加に貢献いたしました。また、南米全域に亘って、大手グローバルブランドによる複数カテゴリーでの商品展開が売上高を牽引いたしました。加えて、グローバルファストフードチェーン店とのコラボレーションが『ハローキティ』の認知度向上に大きく貢献しました。

営業損益は、売上高の増加に伴い伸長いたしました。

⑤ アジア：売上高288億円（前年同期比57.6%増）、営業利益149億円（前年同期比72.1%増）

中国は、ライセンス事業において、トイ&ホビーやアパレル・アクセサリ、企業特販カテゴリーが好調に推移いたしました。複数キャラクター戦略が奏功し、『ハローキティ』だけでなく『クロミ』や『マイスイートピアノ』などのキャラクターも人気を博しました。物販事業においては、新店舗オープンや地域限定商品の展開を通じた顧客接点や話題創出により、売上高が大幅に増加いたしました。

韓国は、ライセンス事業において『ハローキティ』や『ポチャッコ』が注目を集め、ヘルス&ビューティー、企業特販、玩具カテゴリーが好調に推移いたしました。

台湾は、ライセンス事業において、玩具、アパレル、食品カテゴリーが好調に推移いたしました。複数キャラクター戦略が奏功し、特に『マイメロディ』と『クロミ』の人气がさらに高まりました。

香港・マカオ地区は、ライセンス事業において、金融機関や地方自治体と取り組みを行った企業特販カテゴリーが、売上高の増加に貢献いたしました。

東南アジアは、ライセンス事業において、玩具ライセンスとの複数地域展開、企業特販カテゴリーの好調が継続し、売上高が増加いたしました。『ハローキティ』の人气が継続するとともに、玩具や食品カテゴリーにおいて複数のキャラクターが売上高を伸長いたしました。

営業損益は、アジア全体においての売上高増加に伴い伸長いたしました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は2,101億円で前連結会計年度末比77億円増加しました。資産の部の主な増加項目は売掛金70億円、商品及び製品39億円、原材料及び貯蔵品5億円、流動資産のその他14億円、建物及び構築物（純額）4億円、有形固定資産のその他（純額）8億円、無形固定資産19億円、投資有価証券11億円、退職給付に係る資産3億円、投資その他の資産のその他18億円、主な減少項目は現金及び預金117億円です。

負債の部は722億円で前連結会計年度末比225億円減少しました。主な増加項目は支払手形及び買掛金44億円、固定負債のその他12億円、主な減少項目は長短借入金及び社債（1年内償還予定社債を含む）39億円、未払法人税等8億円、賞与引当金3億円、流動負債のその他20億円、転換社債型新株予約権付社債210億円です。

純資産の部につきましては、1,378億円と前連結会計年度末比で302億円増加しました。主な増加項目は利益剰余金282億円、転換社債型新株予約権付社債の権利行使等に伴い増加した資本剰余金120億円、主な減少項目は自己株式71億円、その他有価証券評価差額金5億円、為替換算調整勘定10億円、退職給付に係る調整累計額8億円です。

自己資本比率は65.5%で前連結会計年度末比12.6ポイント増加しました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間におきまして、グローバルで推し進めている複数キャラクター戦略や様々な施策が奏功し、『クロミ』や『マイメロディ』をはじめとする当社キャラクターのさらなる人気の高まりを受けて、業績は計画を上回って推移いたしました。そのため通期におきましては、当第3四半期連結累計期間における好調業績を織り込むとともに、第4四半期連結会計期間においても引き続き堅調な売上推移が見込まれると予想し、通期連結業績予想を修正するものであります。



(4) 利益処分に関する基本方針及び当期の配当

当社は株主に対する利益還元を経営の重要事項と考えております。当第3四半期連結累計期間において436億円の親会社株主に帰属する四半期純利益を計上し、計画を上回る水準で着地したことを踏まえ、通期において520億円の親会社株主に帰属する当期純利益を計上する見込みとなりました。そのため、期末配当に関しましては、業績予想を上方修正した結果、前回予想の1株当たり31円から4円増配の1株当たり35円にさせていただきます。

これにより、年間の1株当たり配当金は前回予想の1株当たり62円から4円増配の1株当たり66円となる予定です。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	118,976	107,202
受取手形	253	585
売掛金	22,361	29,459
商品及び製品	7,250	11,235
仕掛品	29	22
原材料及び貯蔵品	460	989
未収入金	351	563
その他	2,211	3,632
貸倒引当金	△196	△211
流動資産合計	151,698	153,479
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,971	4,401
土地	6,300	6,312
その他（純額）	6,546	7,432
有形固定資産合計	16,818	18,145
無形固定資産	3,595	5,502
投資その他の資産		
投資有価証券	7,558	8,727
退職給付に係る資産	16,192	16,588
繰延税金資産	2,617	1,985
その他	4,077	5,960
貸倒引当金	△152	△281
投資その他の資産合計	30,293	32,980
固定資産合計	50,707	56,628
繰延資産	0	-
資産合計	202,406	210,108
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,420	9,856
短期借入金	6,916	4,538
未払法人税等	9,547	8,666
契約負債	6,170	6,210
賞与引当金	1,267	947
株主優待引当金	106	24
ポイント引当金	15	11
その他	19,833	17,802
流動負債合計	49,277	48,057
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	28,312	7,265
長期借入金	5,023	3,527
退職給付に係る負債	1,027	993
その他	11,157	12,398
固定負債合計	45,521	24,185
負債合計	94,798	72,242



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,261	10,261
資本剰余金	4,638	16,732
利益剰余金	93,238	121,483
自己株式	△17,630	△24,825
株主資本合計	90,508	123,652
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	785	213
為替換算調整勘定	8,154	7,055
退職給付に係る調整累計額	7,583	6,776
その他の包括利益累計額合計	16,522	14,045
非支配株主持分	576	168
純資産合計	107,608	137,866
負債純資産合計	202,406	210,108

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	104,786	143,194
売上原価	24,095	30,920
売上総利益	80,691	112,274
販売費及び一般管理費	39,597	49,875
営業利益	41,093	62,398
営業外収益		
受取利息	883	805
有価証券利息	168	168
受取配当金	86	52
為替差益	227	76
投資事業組合運用益	136	1
その他	349	385
営業外収益合計	1,852	1,489
営業外費用		
支払利息	127	133
支払手数料	139	184
支払解決金	-	97
その他	14	16
営業外費用合計	281	431
経常利益	42,665	63,456
特別利益		
固定資産売却益	0	1
投資有価証券売却益	2,079	-
特別利益合計	2,079	1
特別損失		
固定資産処分損	18	72
減損損失	6	7
事業構造改善費用	4	-
特別損失合計	29	79
税金等調整前四半期純利益	44,715	63,377
法人税、住民税及び事業税	12,967	16,795
法人税等調整額	△2,186	2,676
法人税等合計	10,780	19,472
四半期純利益	33,935	43,905
非支配株主に帰属する四半期純利益	144	226
親会社株主に帰属する四半期純利益	33,790	43,679

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	33,935	43,905
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△770	△571
為替換算調整勘定	598	△1,123
退職給付に係る調整額	△483	△806
その他の包括利益合計	△656	△2,502
四半期包括利益	33,279	41,403
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,136	41,201
非支配株主に係る四半期包括利益	142	201

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債の権利行使に伴う自己株式の処分を行っております。この結果、資本剰余金が12,591百万円増加、自己株式が7,788百万円減少しております。また、2025年11月20日開催の取締役会決議に基づき、2025年12月23日現在で当社普通株式2,872,200株を取得しております。この結果、自己株式が14,999百万円増加しております。

この結果等により、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が12,094百万円増加、自己株式が7,195百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が16,732百万円、自己株式が24,825百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	63,573	3,484	18,259	1,149	18,319	104,786	—	104,786
(うちロイヤリティ売上高)	(15,027)	(3,398)	(16,778)	(1,127)	(14,292)	(50,623)	(—)	(50,623)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	18,841	103	77	61	3,929	23,014	△23,014	—
(うちロイヤリティ売上高)	(17,807)	(7)	(—)	(—)	(—)	(17,815)	(△17,815)	(—)
計	82,414	3,588	18,337	1,211	22,248	127,800	△23,014	104,786
セグメント利益	27,283	909	5,206	392	8,703	42,496	△1,402	41,093

- (注) 1. セグメント利益の調整額 △1,402百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	85,239	7,957	18,841	2,281	28,874	143,194	—	143,194
(うちロイヤリティ売上高)	(23,279)	(7,844)	(17,160)	(2,255)	(19,976)	(70,517)	(—)	(70,517)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	24,405	120	96	42	6,023	30,688	△30,688	—
(うちロイヤリティ売上高)	(22,222)	(5)	(—)	(—)	(—)	(22,227)	(△22,227)	(—)
計	109,645	8,077	18,937	2,324	34,897	173,882	△30,688	143,194
セグメント利益	40,600	2,396	5,887	624	14,979	64,488	△2,089	62,398

- (注) 1. セグメント利益の調整額 △2,089百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,649百万円	2,023百万円

## (重要な後発事象)

## (株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更)

当社は、本日（2026年2月12日）開催の取締役会において、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更について決議いたしました。

## 1. 株式分割の目的

当社株式への最低投資金額は、50万円付近で推移する状況が続いており、東京証券取引所が「少額投資の在り方に関する勉強会 報告書」で示した個人投資家の求める投資単位の水準（10万円）を大きく上回っております。今回の株式分割は、当社への最低投資金額を引き下げ、投資家の皆様がより投資しやすい環境を整え、投資家層を拡大することを目的としております。

## 2. 株式分割の概要

## (1) 分割の方法

2026年3月31日（火）を基準日として、同日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する当社普通株式を、1株につき5株の割合をもって分割いたします。

## (2) 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	普通株式 255,408,303株
今回の分割により増加する株式数	普通株式 1,021,633,212株
株式分割後の発行済株式総数	普通株式 1,277,041,515株
株式分割後の発行可能株式総数	4,650,000,000株

## (3) 分割の日程

基準日公告日（予定）	2026年3月13日（金）
基準日	2026年3月31日（火）
効力発生日	2026年4月1日（水）

## (4) 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は以下のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）
1株当たり四半期純利益	28.61円	36.33円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	27.48円	35.92円

## 3. 定款の一部変更

## (1) 変更の理由

上記の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2026年4月1日を効力発生日として、当社定款の一部を変更いたします。

## (2) 定款変更の内容

変更前の定款	変更後の定款
（発行可能株式総数） 第6条 当社の発行可能株式総数は、9億3千万株とする。	（発行可能株式総数） 第6条 当社の発行可能株式総数は、 <u>46億5千万株</u> とする。

## (3) 変更の日程

定款一部変更の効力発生日 2026年4月1日（水）

## 4. その他

## (1) 資本金の額

今回の株式分割に際して、資本金の額の変更はありません。

## (2) 期末配当

今回の株式分割は、2026年4月1日を効力発生日としておりますので、2026年3月31日を基準日とする2026年3月期の期末配当は、株式分割前の株式数を基準に実施いたします。

## (3) 2028年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の転換価額の調整について

当社が発行した2028年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の転換価額が下記のとおり調整されることとなりました。

## ① 転換価額の調整

銘 柄	調整前転換価額	調整後転換価額
2028年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債	2,539.4円	507.9円

## ② 適用日 2026年4月1日以降